





景市同治七年三月三日
下垣内和人
737

序

能諧の場よりいさよとくもはあはくは
志く一旅もるるはあはくは
多くくはあはくはあはくは
道はあはくはあはくは
あはくはあはくはあはくは
あはくはあはくはあはくは
あはくはあはくはあはくは



手拾の共母よきりてこそ
可もまほしきわ六燈といつて
当れしやうす物にかきと
初もあつたきくせぬ

洛西王生殿の書

卒未初煉

業門和及

款仙之俳諧

独吟

和及

花農もたつとちもなごよ昼時か
定つたやうな一はつたあめ
喜れ海舟生海嵐とどろせて
都乃流きとやふありきり
月れ来をふを腰のかきほし
孫あづらうしとく何の談合

夏は長を長^{ヨシカ}にありぬ新^ニまら
隣^{ウス}の磨^{ウス}を非^ヒに^ヒと^ヒ
と此醜^{ウシ}下^カ此醜^{ウシ}も^ウと^ヒ世^セあり
定^{チヨウ}未^ミ入^ニる^ニと^ヒと^ヒと^ヒ

中^{ナカ}六^{ロク}長^{チヨウ}の月^{ツキ}は^ヒま^ヒ日^{ニチ}六^{ロク}年^{ネン}刻^{キョク}
妹^{イモ}暑^{シユ}げ^ゲある^ル歴^{レキ}半^{ハン}月^{ツキ}き^キる^ル流^{リウ}
る^ルと^ヒかり^カて^テ強^{キョウ}敗^ハる^ルふ^フよ^ヨ一^{イチ}夜^ヤれ^レよ
つ井^{ツヰ}に^ニ炎^{エン}ぬ^ヌ宵^ヨ中^{チュウ}忍^ニは^ヒる^ル

傾^{ケイ}城^{シヨウ}み^ミも^モも^モや^ヤの^ノ事^{コト}か^カく^クな^ナり^リと
湖^コや^ヤ雨^{アメ}考^{コウ}下^カ結^{ケツ}乃^ノせん^{セン}け^ケく
河^カの^ノ聲^{コエ}と^トこ^コら^ラひ^ヒく^クよ^ヨら^ラ残^{ゼン}あり^リと
子^コま^マの^ノぬ^ヌえ^エれ^レう^ウも^モあ^アし^シあ^アよ
と^トま^マの^ノ強^{キョウ}弱^{ジュウ}や^ヤ御^ミ室^{シヨウ}れ^レ花^{ハナ}が^ガら^ラり
薄^{ハク}も^モ萩^{ハギ}も^モも^モえ^エと^トあ^アと^トく

和及

をどくや二日にありぬ衣が
あ葉が中乃花は足おと先
入る年一読とちと家越く
鬼よはやふあ一と一と
ぬれぬどもかかちる月
い川あそ麻の水とのむと

汗とよいれあうりれ傳生いりて
東百姓一ゆぬうほい
られくぬうづく独れあうこあ
たは裸ぐあると暑き日
富士入や雲にうきせと見え
銀がまきゆま気あ
伯父とらあああ水とあ
とまふ中らにむれあ

やりやとくしと泥龜スガシで焼紅葉
生田イケタ昆湯コノヤ野ノの月ツキぞと後ノチある
かふふれカ伊房イハをシに若ニあわや
家未イ将場サウジョウの借カり跡アト 役ヤク
海ウミつくと延齡丹ニシレイタンも句クを何ナニも
一倍イチバイこりくらしにけもの
宿ヤドかしてせふつと物モノも此ココ丘ヒラ危ヤシ
蚊カをに多くとらとチ況シ層ソウ

明日アスにニみ豆マメ野ノへヘ葛蒲アヤメをシま
葬サウをぬらひ死シなぬ分ブンあり
にやまぬ人ヒトを何ナニ一ヒトにして
アハアハさゆサふフのノ何ナニもモあたま
ふフぬヌるルあアまマかカもモいイはハらラり
世セ若ニいイはハりリよヨみミなナれレおオにニあり
久キウ都ト尔ニ家カかカしシ終シユウ若ニ月ツキ
踏フミめメらラしシるル蜀シヨクはハらラり

講尺とよもむとむとあまにころり
小袖きくくく襟多えくみあ
津乃国や大に橋の仇喜とと
民此電くくくく時市に錢
痛癢を道りをもとば花のとも
小風あれお吹りりり ころり

和及

穿之や陸の萩よけいんぼと
うういよくく一翅あか
鯉かく釣字れ月にうらぬ
雲方の中いさるうまの年かよ
ぬもぢげぬ他にかくく
抗をつふ術にばえはく

あひまをみちをえんはけうへぬ
うらましく此いひまうけう
親類の中にいより富者も
けりすくかへ昼は葬り読
武藏野やよは屋敷に花す
省ウをハ賊ハあハりハあハりハあハりハ朝
系亦れ役かへは煉農うせ
女中一の月つ赤下おもひり

大かウの推スめあはとりせり
うらまもやしどあありま
あらぬふぎりこがもけい
折ハりハしハるハ梅ツキ木ハをハらハく
まハれハしハ修シ書シ持モかハばハて
所をかへぬ多れ菓のちり

和及

訓ぬまばみぶとぬひさう細代守
雷にかまきり竹のほろこく
酒食とむとぬきりり煙しと
大工ととりぬ月形物あり
ととりすきかあつ物のはしと
煉の法ととれたらいいん

紀伊^キ国^ノとつれと海と山とあり
一月あぶら雨も免はし
采^{コメ}唐^{カラ}摺^トかほり果てる采乃戸
魚^{イサ}鉄^{テツ}がたぬ釘賞しとぞ
世^ヨの^ノ此^{コノ}侍^シ旅^リ亦^モ腰^{コシ}かゝ先
能^ノ見^ミどし^シの^ノふに
親^{オヤ}よりく生^ナれつさかふ采^{コメ}あり舞
也^ヤあつにありど人^{ヒト}のみども

土
ろりさ北極死打もど夜中月
ほろろ海かきり昼乃索 麴
花乃とさ結るれ親主神もて
萱妙世野の下京者もどら
橋立の魚荷うてくるまれ月
け山陰を瘡湯行る山を
水ホくと袈裟衣もかきよめ
付まぬく天狗付まぬかき
一

延寶にうつりて志かき
誰やうう字く前れもろこ
戀乃疢あうぬほろ海ありど
あうう世後ハよりや沐浴
住もそぬ備屋備屋一せう
只かんくもあう守人うか
あうう夜を床入せだま
秋とり字を中一の気か

あまのつばねの純な髪とてむしり提
謀及伐かろ人 紫量キリヤのり
兼ぬも伊賀と立退タテノキをもちひり
た葉古なき世にけいけいか
ひそせを花のつるのきけい日か
けいひがささききさきさき

都鄙の化者れたつた人
の口にのるを身よさるる
かき津まきさけると古に
まる守しかりありを請い
あつらふむ作者のまきら
ひてあまのつばねの遠
渡り赤外の家につか
もまきさき

夏句 四季不同

十一

都よりけむる霞をいつとらる

けり室鑑短冊よりとらる

櫻叟室鑑

霜のけむるいおさや霜のけむる

門随 伏見宮院

梅もやけりくありぬ夏木立

北条三守

猪毛ともけりけり けりけり

和及

死ぬると念佛中ぬとまひより

尚白 大津

湖のけむるけりけり けりけり

如泉

何心けりそ卯月けりけり 雨

我らきれ人を依之羅のらまわ哉

南都一之

我黒

つりあひのけ乃端かん旅衣

常牧

誰タガひりそ石河ありま 初摺

信徳

鼻帯をけりまごにけり女、の

方山

り妻や水たきをかく昔中川

晚山

うき半れおのまゝの穂の蟬

好春

きりくぢや手れつぬ炭ま一俵

幸休

花子生れむお死そり昔野人

竹亭

あつ雲とよ船きまのふらびん花
あつらやせのそひねはえし四月

作者不知

灰汁桶アケクの下フケやシラきりきり

来山あは

月花中よ座のうとあり

あははら日

良はこれよりくまきや非ふ笛

又十日

灌佛表水のゆきりや花のほ

萬海日

入心やういそ花の師一走く

車要日

余表草にうくくくくくくく

由采日

名月やらうきにおもふの戸の石

周也

おもひのしづくゆる志を流す

作らきうの

うらやまーふまきしと記猫の志

わ志う 於あ

しあひもやけつまきうー系流んま

あづう 日

沿うに流るゆとりー志るたけ

鞭石

蚊屋はうの流もきて 釘乃者

暮四

ゆらや火雄のとへおもひ出と

静榮

嵐の月らんーきけてもきさやま

荒醜や業ほくさの甲と

草

野標

山はともや横う下れうはらう
家あつらうらうや船とて島島

荷翠

朔日也^{リチキ}律義^ヲさる五月雨

いよきん^ヲ御札^ヲきり侍くきり

和足

物よりそ行言はるやふれ

五月雨らうらうらうに人う

鹿海

うらはらうらうらうらうらう
色はあうははらうらうらう

梅氏

すま^カあ^カの丹波の風情あつらう

和房

うらうらうらうらうらうらう

明水

あけくさやゆんぞろい
月あかりやいづこの中ればのれあり

芦秋

ふたしちや下たれをく流し川涼

松翠

廁カヤあけく牡丹をけや一まわり
水仙やいづこあんだれかいつら苑

萍水

人々ねどちをたててあぬき花
天和れはちいづこを風はらひ

あけくさやゆんぞろい

あけくさやゆんぞろい

琴業

一ふや湯ユドリ敷乃らよこれかおひ

松枝

涼もやいづもほろもろも

古^キ伽藍^{ガラン} ねん

蜻蛉^{トビ}や来^キぬ^ル羅漢^{ラクハン}の鼻^{ハナ}れり

九雪

暮守^{ムシ}り^ルづ^クものありや^ヤ亦^{モト}此^{コノ}皮^カ

新橋

不孝^{フコウ}やと志^シかく^クに^ニま^マそ^ソり^リお^オ霜^{シヨウ}月^{ツキ}

作者^{ソウシャ}失^シふ^フ

すく^スと^ト紙^シや^ヤ併^{ヘイ}の^ノは^ハめ^メぞ^ゾん^ンお^オて^テ置^ヅ

静榮

や^ヤ言^{コト}ぬ^ヌ子^コ号^{ガウ}は^ハな^ナき^キに^ニあ^アは^ハら^ラり

り^リ喜^キ名^ナゆ^ユら^ラり^リこ^コや^ヤは^ハを^ヲ錢^{ゼン}目^メを^ヲり

和及

涼^{スズシ}さ^サ乃^ノ十^{ジュウ}日^{ニチ}ら^ラり^リや^ヤ青^{アヲ}豆^{マメ}

自悔

暮回

罪^{ツミ}科^カの^ノ巨^{コウ}等^{トウ}く^クも^モや^ヤ古^コ扇^{セン}

地志

ふたつと心や月夜中三杯

貞隆

龍田河を流るる水かき

相本

とぬらぎ〜其衣とけよ枯る

新編

夏乃日如月の鳥よもいづらふ

多らけり

宇治系所乃又舟を待たせり

竹亭

すこや日あらと云るはなご

生良

本枯るもぞ残し〜一志はく

和及

こが〜や津〜くるれあびや

桃雨

あふ生をみよよ花のもと

友勝 南総松井氏

花れ幕布呼ぶまはくも亦う続

息吏 日

津わとせの所もけり也雲の峯

可及 野氏

花百合の語も花のちいさう

道弘 南総

何くきすあかかたもあふね

陸舟 日

一僕 ホリとけきいあ川郭へ

静榮

あまの子にけりかきよ夜之

和及

初妹やまけりて衣茶此一せんじ

作者失之云

秋乃暮火やとがさむとひひら

軒桺

つうそりて牡丹うごくよ様乃朝

静榮

うこもりねもも忍ぶとらま経

狂醉 丹波無山

かまろよ水風岩志まへ操狩

操琴 作及海山

水玉乃さゆりれ下をうごけり

釣窗 江五公瑞

を續うある花うる入岩松をい妻

古林 日所

花山やあなうぬう海なる人らりり

雨風水きだう山形を標一か如

未入 日

馬に居る水乃が... 柳

一秋

夏乃長... 後

冬乃芳野と 竹翁

心乃... 炭竈... 芳野山

猿宿 秋麻

うら... 猿

静榮

手興農水... 月

取題昂無 周木

ふ... 名をゆわ

周所

七... 下子乃言

郁堂 南都

枯... やー... 水

病後示 空洞 藝乃

初らに草を以ててててててて
春法也的アツチ山をづゝててて

翌九日

足灯やつれびうの御幸道

取懸祭の念に 山折 山折

跡もる人もおるるはく

おかー丸 賀 年長

何の乃花をりをり餅は

兼法 江初

川島みきの此泥や田の賣

ユタカ豊豆ある世に於てて田螺か

芝焼を 次宗 日傍

芝焼や人のよがせる所も

孝榮 京

芝焼やらぐ世をりて

餅鱈を 詞計 江初

きら〜とやをひき^カに食ぬ^ニ鮎^ニ鮎^ニ

菖舟 いえん

もりか^カも^カあ^カぬ^カ都の鮎あも^カ守

菖臺

正堂

ひよこ^カも^カく^カ出^カ食^カあ^カく^カぬ^カきた^カら

目意 ^{ヒコ子}

まの^カ花^カを^カい^カら^カあ^カり^カん^カ菖臺^カ

や^カあ^カす^カあ^カり^カい^カい^カさ^カた^カ子^カと

う〜あひと 知延

け^カあ^カり^カを^カい^カら^カあ^カし^カち^カり^カは^カら

知^カ延^カい^カら^カり^カい^カら^カり^カい^カら

子^カり^カも^カみ^カち^カり^カあ^カ笑^カひ^カい^カと

お^カも^カい^カら^カり^カい^カら^カい^カら^カて^カい^カと

つうらん 和友

き^カら^カい^カよ^カけ^カ坊^カま^カい^カと^カ花^カの^カえ^カと

月追悼 静榮

おもはすどきしらに
向金佛もそのみちられほど
かゝるに遠きこゝか

竹亭

ひらきかきしそをわがわが月

たねし丸

暮四

いさびう羽あぢりしな根のと

日

た翠

うひらま縮みふゆはう衣か

卯色のとせけおまのゆきん

と天つうらに

鹿海

かゝるよまきしもたぎゆとあす

すこほく天初是(中)約

軒柳

あけよおしほくれあまをせう

島はあまをうけ追善

六羽大坂

帯斗鑑カキつらつらやうらうらん

鉄硯ありしと向はて

和及

橋よりまぶせの中れ又ゆるし

主君の御あり銀刀若場あり

兄弟一所も果ありし親伯父

の二十三日忌 一 西路 邪心

毒櫻火花のらりしをありて

和及法師京いゝあむとつらと

やうらうら

望景 南記

あうらうの著けり世へし喜如雨

流笑 日

衣がくあふ事といさうらひぬ

心樂 日

靴火乃きもほろくかろ哉

案人 あね

うよゆらまきしつ花らるるつかびり

扇計 あふ

すさあやまくに女半れごがり角

鉄水 てつすい

五月野をわしきとつあひ死ひり

通元 とげん

二葉よりやまとあらしり本給島

子何若天満井の交地ゆき

しを建立乃ぬびありこ

秋獨 あきひとり

我うゆれもや花見とよ毒乃交 サマ

信竹 のぶたけ

川抗若胡蝶や水乃こゆるまこ

静榮 しずか

丈山若忍不知しう足振

ら日老の葛蒲と静榮

も既雨老あやちをゆくとゆまそり

いひろを

林下

袖のほろろひあうり氷室守

あつたれとたうりさうりよと

いさる茶臼に

一夏おん

らびしきた隣りセドのわらうら

又

一春おん

まよしちたけけし後とあがちそり

林給いさ

ちう菊や釜うほふ賤が家

里洞ヒカシニ

細代守きまもむすや一所化坊主

放言伊丹

見くらや一羽乃落るれ煉のえ

編つまの待つま堂よ人もか

都雪

名月やねむいもさるる哉

和梅

碎さくや気い句くさきまはれ

自眼みま

夕ゆふく人うらみゆるうらづ

少碎こず

竹の子や糸の糸といふは

女おんな

竹の子は一寸はくやまはるる

玄流つるか

翌ツキ乃来いもやうらうらぬ帳か

汀つら宿見

菊くき此戸や竈くたと手桶てづくも蚊か屋や内

奥長おくなが

女房にようぼうがつかよ字あざより田植いり歌

玉水ツツ

傘カサのりてはりひるまに此回うへか

門随 善門院

回を極る下はかあさうらうら

跋

水雲の海を西遊を時とて
際此をそあははいつのそ有流
かろりゆへに秘丹ふらん自ら
ふぬたまはるれあひこそこの
よのりきくそふたご



此書

皇都書質

新井清兵衛 板
小佐治中



改池書

